



森田 潔 学長

美しい学都 の実現へ

—国際学術都市「美しい学都岡山」を目指して—
地域総合研究センター (AGORA)
5つのミッション

社会貢献
活動強化

地域研究
情報発信

学都構想実現

まちなかキャンパス
グローバル人材養成

シンクタンク
機能発揮

窓口機能展開

—地域総合研究センター開所で、 協働の取り組み強化—

森田潔学長が「森田ビジョン」で掲げた「美しい学都」の実現に向け、知的拠点となる「岡山大学地域総合研究センター (AGORA)」が11月15日、開所した。

同センターは大学の社会貢献活動の調整・強化▽シンクタンク機能▽地域連携に関する窓口機能▽研究の蓄積と情報発信—を活動の柱に、大学が岡山県内の自治体、経済界、各種団体などと協働してさまざまなプロジェクトに取り組む。

「地域の人々と連携しつつ、地域の善き頭脳、地域のための優れた人材養成の場となり、知的に高度な地域サービスを提供する大学をつくりたい。さらに、岡山大学を国際的なネットワークの中で、人文社会、教育、環境、自然、医療の分野を包含した国際的なリサーチセンターを持つ大学に押し上げ、そこから真に个性的な卓越した大学につくり上げていく。岡山の地にあつてこそ世界から人が集まり、世界に輝く大学に」

岡山大学のあるべき姿を示したこの森田ビジョンの具現化という使命のもと、開所した地域総合研究センター。よりよいまちづくりへ向け、地域と手を携えた大学の社会貢献がいよいよ始まった。

地域と大学が協働で 美しい学都創成

地方分権化が進む中、大学としての戦略的な地域貢献を通じて地域との絆を深め、魅力的な都市づくりに寄与することが期待される岡山大学地域総合研究センター（AGORA）。センター長の荒木勝理事（社会貢献・国際担当）にセンターの役割や今後の展開について聞いた。



センター長・荒木 勝 理事

地域総合研究センターの使命、役割は。

大学と都市、地域が協働して学都構想を具現化するための組織。学長から学生まで、それぞれのレベルで地域と協力して魅力的な大学、都市づくりをしたい。欧米では分権化の中で、既に地域活性化の切り札として大学と地域が協力関係を構築している。例えばフランスのストラスブール大学はもとも国立大学だが、10年ほど前から、地元の自治体から寄付を得るようになった。自治体が大学の運営全般に関わり、自分たちに必要な人材を養成するために連携組織も立ち上げている。財政的支援はもちろん、職員レベルでも協力し合い、成果を生んでいる。学生にとっても公共施設を便利に使えるなど、利点がある。日本でも人的交流、財政的交流など生活全般で

協力していく時代が来るだろう。

都市の大きな魅力に「人が育つ」というのがある。欧州では誇るべき教育機関を持つことが、住む都市選びの基準の一つになっている。岡山大学も市民に誇りに思ってもらえる大学でありたい。大学はキャンパスの内に閉じこもりがちだが、市民の皆さんとふれあうことが研究・教育のレベルを上げることにもなるだろう。

地域総合研究センター設立の経緯は。

岡山大学では、これまでも先生方個人の貢献活動をはじめ、医学部の地域医療、研究推進産学官連携機構と地元企業との技術的な連携、社会文化科学研究科での経済界、自治体、NPOなどの研究会開催など、地域連携の実績はあった。その数は年間約5700件に上る。ただ、大学全体としての地域貢献の姿が不明確で、戦略的に取り組む方法を模索していた。そこに森田ビジョンで、学都構想を具現化するセンターの必要性が明示され、設立に至った。

「AGORA」という名称には古代ギリシャの知恵を借り、「直接、人々が意見を交換する場、真剣な対話を通して信頼関係を築く場にした」という願いを込めている。

具体的にどのような活動になるのか。

すでに始動しているのが、同センター主催の「国際学術都市構想会議」と岡山市の呼びかけで実現した「経済戦略懇話会」。国際学術都市構想会議は岡山大学、岡山県、岡山市、倉敷市、経済同友会、商工会議所で構成し、グローバル化に対応するために必要なことを探る勉強会を開く。グローバル人材養成についての講演会や留学生をキーワードにしたまちづくりの構想もある。また自治体や経済界と協力して海外拠点を共同利用していく計画も持ち上がっている。経済戦略懇話会では、学都構想を踏まえ、岡山市、商工会議所とまちづくりなどについて活発に意見交換する。もう一つ、学生たちが学び、市民と対話し、まちづくりを行う場となる「まちなかキャンパス」づくりも急いでいる。机の上だけでなく、実生活を通じ、学ぶという形で教育を考える必要がある。その中で地域の人たちと絆が生まれてくるだろう。

センターには専任教員3人を置くほか、学内の教員パワーをまとめる協力教員会議、学的な体制としての連絡協議会を設ける。互いに協力し合い、機動的に活動したい。

まちづくりに貢献

AGORA開所式 シンポで意見交換



岡山大学地域総合研究センター（AGORA）が開所した11月15日、学内では記念式典やキックオフシンポジウムが開かれた。旧事務局棟前で看板を除幕した後、創立五十周年記念館で式典。森田潔学長が「AGORAのミッションの達成は容易ではないが、達成の暁には岡山大学と岡山地域は世界に輝く魅力的な学都に変貌すると確信している」とあいさつし、岡山県知事、岡山、倉敷市長から祝辞があった。

シンポジウムでは、文化庁長官の近藤誠一氏が「日本の未来、大学と地域の役割」と題して基調講演。近藤氏は「大学は地域の知の集積場所。都市がそれぞれの特性を生かし、文化芸術や美術という付加価値を付け、地域の人々が魅力を再発見し、まちに魅力が増し、若い人が戻ってくるという好循環を生む最初の力を大学は与えてくれるのではないか」と話した。

「地域が変わる」大学と地域の創造的連携」と題したパネルディスカッションでは、岡山商工会議所副会頭の古市大蔵氏、日本経済研究所専務理事の傍士統太氏、直島福武美術館財団副理事長の福武純子氏、国土交通省官房審議官の花岡洋文氏が意見交換。「地域に根差す」という意思を形にすべき」「地域の人たちとの密接なコミュニケーション」が大切」「公民学の幅広い形での連携が学都創成につながる」「大学が元氣な所はまちも元氣。岡山大にももっとまちに関与してほしい」などの意見が出た。

AGORA スタッフ紹介



助教
岩淵 泰
いわぶち・やすし
熊本大大学院社会文化科学研究科博士課程修了。仏・ボルドー政治学院、米・カリフォルニア大学パークレー校にて、まちづくりや参加民主主義を研究。福岡市生まれ。



副センター長・教授
三村 聡
みむら・さとし
法政大大学院社会科学部研究科修士課程修了。労働金庫連合会、金融財政事情研究会、商工会議所年金教育センター、現代文化研究所、愛知学泉大コミュニティ政策学部教授などを歴任。愛媛県生まれ。